

反帝・反社会排外主義の旗の下、被抑圧民族、人民と連帯し、日帝の侵略反革命を内戦一革命戦争へ！ 共産同(国際主義派)

プロレタリア通信

10月25日 5号 一月一回発行 山崎 隆 編集発行人 (1部 100円)

新生ジャーナル社 東京都千代田区西神田2の3の2 敬ビル305 TEL:262-3786

決意を新たにうち固め、すべてを党のために、人民のために、革命のために!!

十・十月決戦から 党建設へ爆進せよ

全国のすべての労働者！ すべて同志、友人、同志！ 七十年度の階級闘争は、今秋十月、十一月、十二月、天皇を頂点にしていよいよ激烈に展開せんとし、十一月、十二月、これをテロに何れも日帝打倒・プロレタリア革命の勝利の進路を切り開かなくてはならない。...

全国の九十九の労働者諸君、すべての人民諸君！ われわれ共産主義者同盟(国際主義派)は、長期にわたる階級闘争・プロレタリア革命の勝利を告げる。今十月を期して新たな決意のもとに定期刊行を開始する。これを明らかにすると同時にすべての労働者人民諸君の定期刊行を期す。...

10.31 狭山最高裁判決勝利！ 11.10 天皇在位五十年記念式典粉砕！

一九七六年十月二十五日 共産主義者同盟(国際主義派) プロレタリア通信の発行がはからぬ労働の停止あり、人民に

プロレタリア通信 5号

昨年4月のベトナム人民の民族解放、社会主義革命の勝利は、帝国主義と新植民地主義の戦後世界に激しい打撃を与え、世界の大分化、大再編を急進させている。...

第一は、ベトナム人民の勝利は、全世界の人民の勝利である。帝国主義と新植民地主義の戦後世界に激しい打撃を与え、世界の大分化、大再編を急進させている。...

第二は、ベトナム人民の勝利は、全世界の人民の勝利である。帝国主義と新植民地主義の戦後世界に激しい打撃を与え、世界の大分化、大再編を急進させている。...

第三は、ベトナム人民の勝利は、全世界の人民の勝利である。帝国主義と新植民地主義の戦後世界に激しい打撃を与え、世界の大分化、大再編を急進させている。...

第三は、ベトナム人民の勝利は、全世界の人民の勝利である。帝国主義と新植民地主義の戦後世界に激しい打撃を与え、世界の大分化、大再編を急進させている。...

第四は、ベトナム人民の勝利は、全世界の人民の勝利である。帝国主義と新植民地主義の戦後世界に激しい打撃を与え、世界の大分化、大再編を急進させている。...

第五は、ベトナム人民の勝利は、全世界の人民の勝利である。帝国主義と新植民地主義の戦後世界に激しい打撃を与え、世界の大分化、大再編を急進させている。...

第六は、ベトナム人民の勝利は、全世界の人民の勝利である。帝国主義と新植民地主義の戦後世界に激しい打撃を与え、世界の大分化、大再編を急進させている。...

一九七六年十月二十五日 共産主義者同盟(国際主義派) プロレタリア通信の発行がはからぬ労働の停止あり、人民に





……中略……民主主義の問題のマルクス主義的解決とは、要するに、階級闘争をおこなっているプロレタリアトが、ブルジョアにたいするプロレタリアートの勝利すなわち、ブルジョアジーの打倒を準備するために、すべての民主主義的制度的ブルジョアジー反対の志向とを利用することである。(「レーニン全集」三巻P一〇)

ここには、レーニン主義の思想がはっきりのべられている。すなわち、帝国主義段階におけるプロレタリア革命はすべての民主主義的制度的利用、プロレタリア社会主義の下での民主主義の全面開花の過程のなかに実現されなければならない。レーニンはこの路線の確立によって、「成長転化」の理論を克服した。この革命路線こそ、帝国主義時代のプロレタリア革命の路線である。ところが、社会非外主義者カマはこのレーニン主義を解体するため、ロシア革命は帝国主義革命が先進国では適用不可能であるかのようにいくるめられている。これはレーニン主義の解体否定以外のなにものでもない。なぜなら、レーニンは「七年ロシア革命を帝国主義の弱い環におこったプロレタリア革命として説明しているからである。」

ロシアにおける民族問題  
ところで、いまわれわれはブルジョア民主主義等あらゆる民主主義の必要性を述べた。またわれわれはブルジョア民主主義の課題の解決を同時に行うことなしに、プロレタリア革命が勝利しえないものべた。いうまでもなく、ロシア・プロレタリア革命は、主要に二つの民主主義的課題を解決しなければならなかった。一つはプロレタリア帝国内主義の下での民族・農民問題であった。いま一つは民族・種族問題であった。この民族・種族問題の解決はきわめて重要であった。当時のロシアは全人口約一億四千万のうち、大ロシア七五〇万人(約五二%)、ウクライナ人約一八〇万人(約一二%)、三〇〇万人、白ロシア人四五〇万人のこれら三つのスラブ民族グループに対し、非スラブ諸民族が約三〇〇万人いた。プー政府は西部、東部の辺境地域を中央アジアに自らの支配を確立し、国内種族地帯を行っていた。この点について、当時レーニンは「民族自決権」について(一九二〇年)で次のようにいった。「ロシアは、ひとつの民族の中心をもつ国家、大ロシア民族を中心とする国家である。大ロシア人は広大な、はてなつてつらなる領土を占めており、その数はほぼ七千万人に達している。この民族は国家の特徴は、まず第一に「異民族」……が辺境地方に住んでいるということ、第二に、これら異民族に対する圧迫が隣国……に及ぼされるよりほかに強大であること、第三に、多くのほかに、これらの辺境地方に住む土着されている諸民族の同胞が、ロシアの国境をちかえていること、第四に「異民族」の住んでいる辺境地方のほうが、しばしば国の中心部より

も資本主義の発達や文化の一般的水準の点で高いこと、最後にこの国に隣接するアジア諸国では、ブルジョア革命と民族運動ははじまっている地域があり、それがロシアの国境内の同じ民族の一部をもとらえていること、などである。(P一〇五「国民文庫」)

いすれにせよ、ロシア帝国主義の本質にかかわる、このような民族・種族問題の解決がロシア革命の重要な課題の一つ構成になっていった。

このような観点からレーニンはロシア・プロレタリアートの二重の任務、「すなわち、第一に、あらゆる民族主義をより大ロシアの民族主義と交代せよ、一般にあらゆる民族の完全な同権をみとめるだけではなくて、……民族自決と分離の権利をみとめること、第二に、それと同時にあらゆる民族のあらゆる民族主義との闘争を有利にするため、プロレタリアの民族分離の傾向に反対して、プロレタリアの闘争とプロレタリアの諸組織の統一を強調し、それらを国際的統一体に緊密に結合するよりたたかろう」と(同P一七九)を提唱し、また「七〇年革命以降その方針を実践化した。」「七〇年革命以降この民族問題に対するマルクス・レーニン主義の基本的態度は第二回コミンテルン民族および種族問題に関するテーゼ」のなかで、さらにきかされ、しあげられていったのである。